

環境問題に関する市民意識

愛知産業大学 経営学部経営学科 伊藤万知子ゼミナール
岡田寛史、加藤卓也、長瀬貴幸

近年、気候変動や大気汚染、ごみ問題などの環境破壊が問題視されています。これまでも行政や企業が環境対策に取り組んでいますが、環境問題の解決にはまだ時間を要すると思われます。一方で環境対策は消費者である私達一人ひとりの行動が重要であるといわれています。そこで実際に市民レベルではどのような認識をもっているのかを知るため、岡崎市や愛知産業大学において地球環境問題に関するアンケート調査を行いました。

1. アンケート調査の概要

調査期間：2006年8月から9月

調査場所：岡崎サテライトオフィス、西三河総合庁舎、JA美合支店、岡町公民館、
愛知産業大学

有効回答数：226票（男性49.3% 女性50.7%）

年齢：10代 8.0% 20代 20.4% 30代 3.6% 40代 6.2%
50代 14.7% 60代 33.8% 70代以上 13.3%
学生 26.5% その他 73.5%

2. アンケート調査内容と分析

(1) 環境問題について

アンケート調査では、まず『環境問題への関心の有無』について聞きました。関心が「ある」と答えた人は92%、関心が「ない」と答えた人は8%でした。環境への関心は高いといえます。それでは実際に行動しているか知るために、『環境保全活動への参加の有無』について聞きました。「ある」と答えた人は38.8%、「ない」と答えた人が61.2%と、実際に活動している人の割合は『環境問題への関心の有無』に比べて減ってしまっていることが分かります。

性別で見ると、男性よりも女性のほうが、環境保全活動への参加の割合が多いことが分かりました。

『環境保全活動への参加の有無』(性別)(%) 有意水準 1%

	ある	ない	合計
男性	30.0	70.0	100.0
女性	47.4	52.6	100.0

次に、『地球温暖化対策で中心となるべき主体』という質問では、「国、地方公共団体(行政)」と回答した人が48.4%、「企業」と回答した人が16.4%いる一方で、「国民(消費者)」と回答した35.2%の人は、私たち個人が主体となって取り組まなければならないと考えているようです。

また、『地球温暖化の仕組みの認識』について、「知っている」との回答が66.4%ある一方で、

「知らない」との回答は 33.6%と 3 割程度あり、基礎知識や情報が不足しているといえそうです。

(2) 商品選択の基準と価格上昇への負担について

次に、『商品選択の基準』について聞きました。選択基準の第1位は「性能」が41.5%と最も多く、次いで「価格」が34.3%となり、「環境に配慮している」5.6%と「デザイン」5.2%がほぼ並ぶ状態でした。第2位は「価格」が36.9%と最も多くなり、次いで「性能」の31.8%となり「環境に配慮している」と「デザイン」が8.4%で同数となりました。第3位は「デザイン」が23.3%と最も多くなり、次いで「環境に配慮している」の19.0%でした。この結果から、消費者は「性能」、「価格」を最も重視しており、「環境に配慮している」はあまり重要であるとは考えていないようです。

『商品選択の基準』 (%)

	第1位	第2位	第3位
価格	34.3	36.9	14.3
性能(機能・効果)	45.1	31.8	9.0
デザイン	5.2	8.4	23.3
商品に対するブランドイメージ	1.9	4.2	5.7
メーカーに対するブランドイメージ	3.3	2.8	7.6
売れ筋ランキング順位	0.5	1.9	6.2
テレビ・雑誌等の紹介	1.9	3.7	5.7
友人等の紹介	0.0	1.9	1.4
環境に配慮している	5.6	8.4	19.0
なんとなく	0.9	0.0	5.2
その他	1.4	0.0	2.4
合計	100.0	100.0	100.0

また、『価格上昇への負担額について』という質問では、「負担したくない」との回答が23.7%あったものの、残りは商品価格の「5%増まで」が43.3%、「10%増以上」33.0%と、約76%の人が負担してもよいとのことでした。

(3) レジ袋の有料化について

次に、近年、容器包装リサイクル法の関係で、レジ袋の有料化について問題になっておりますので、『レジ袋有料化の賛否』について聞きました。「賛成」と答えた人が67.3%、「反対」と答えた人が32.7%でした。性別や学生・その他別でみた集計結果は以下のとおりです。

『レジ袋有料化の賛否』(性別、学生・その他別) (%)

		賛成	反対	合計
性別	男性	58.3	41.7	100.0
	女性	76.1	23.9	100.0
学生・その他	学生	35.6	64.4	100.0
	その他	79.0	21.0	100.0

有意水準 1%

この結果をみると、男性よりも女性のほうが多く賛成しているといえます。また、学生・その他別でみると、学生のほうが反対している人が多いことが分かりました。学生は、レジ袋にお金を払うことを負担に感じているといえます。レジ袋有料化の目的はレジ袋の削減です。したがって、お金を払って袋を買うのではなく、袋を持参し、使用しないように心がけることが

重要であるといえます。

(4) 次世代の自動車エネルギーについて

愛知県は大変自動車の多い街だといわれています。岡崎市には三菱自動車、トヨタ自動車の関連企業が数多く存在します。そんな地域であるからこそ、自動車の環境負荷への関心が高いのではないかと思います。そこで、アンケートでは、次世代自動車のエネルギーについて聞きました。

『今後主流となりそうな自動車』(複数回答) (%)

ガソリン	ディーゼル	ハイブリット	天然ガス	電気	バイオマス	その他	わからない
7.2	6.3	48.0	13.9	44.4	14.3	2.2	13.5

このアンケート結果からは、近年実用化されたハイブリット自動車に一番関心が集まっています。次に多かったのは電気自動車です。電気自動車は、始動時や暖気時のエネルギーロスがほとんどありません。そのため、チョコチョコ乗りとよばれるような短距離走行に適しており、普及すればCO₂削減効果も高いといえます。

また、次世代自動車のエネルギーとして最近メディアで取り上げられているものに、バイオマスエネルギーがあります。バイオマスエネルギーとは再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたものであり、それをエネルギーとして利用しようというものです。代表的なものとして、自動車で利用されるバイオエタノール燃料やバイオディーゼル燃料があります。これらの燃料使用時にもCO₂が排出されますが、これらのCO₂は原料の生成時に光合成によって吸収されているため、大気中のCO₂濃度を増加させないとされています。そのため、バイオマスエネルギーの利用はCO₂排出量の抑制に役立つと考えられます。

『バイオマスエネルギーの認識』を尋ねたところ、その結果は以下のようになりました。

『バイオマスエネルギーの認識』 (%)

内容まで知っている	言葉は聞いたことがある	知らない
10.8	34.7	54.5

この結果では半数以上の人知らないと答えており、認知度は低いといえます。

3.まとめ

今回のアンケート調査では大半の人が「環境に関心がある」と答えていました。しかし実際に環境対策が進んでいるといえるでしょうか。私たちの暮らすこの日本は物であふれており、その環境が今の生活基準となっています。そのため、どのようなことが環境にいいことか、または悪いことかという区別がつきにくく、そのことが環境対策の遅れの原因となっていることが考えられます。たとえば、世界規模で問題となっている地球温暖化ですが、その原因はCO₂などの温室効果ガスだといわれています。しかしCO₂は生体には無害であり、目にも見えないことから、排出量の削減は容易ではありません。対策を進めていくには、環境問題のメカニズムを知るなどして、対策の必要性を理解し、行動を起こす動機となるものが必要であるといえます。

また、アンケートの自由記述の意見で、「国や企業からの情報提供が必要」といった意見も出ていることから、情報提供が不十分であることが考えられます。しかし、環境問題に関する情報はインターネットや書籍などで簡単に得ることができるため、自ら情報収集することも大切です。私たち個人が環境問題についての基礎知識を得ることにより、環境問題に対する意識が変わり、実際の行動に結びついてゆくきっかけとなるのではないのでしょうか。